

2017(平成29)年度 法学既修者入学試験問題(8月試験)

商 法

(90分, 総点100点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は、表紙及び余白を含めて4ページで、問題は1問ある。
2. 解答用紙は2枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

〔問題〕

次の文章を読み、下の（１）および（２）に解答しなさい。なお、（１）および（２）はそれぞれ独立した問題とする。

P株式会社（以下、「P社」という。）は、平成23年4月に設立された、ゴム製の靴などの製造・販売を業とする取締役会設置会社であり、監査役が置かれている会社である。P社の定款には、発行されているすべての株式について譲渡制限の定めはないが、証券取引所に上場はしていない。P社の取締役はA・B・Cの3名であり、Aが代表取締役として選定されている。また、監査役はDである。P社は総資産が50億円、資本金が4億円、負債20億円、年商10億円である。P社は創業者で代表取締役であるAのいわばワンマン企業であり、他の取締役B・CはAの言いなりであった。

平成28年5月20日、AはQ銀行から居住用住宅を購入するためのローンとして1000万円を借り入れようとしたが、その際にQ銀行から保証人を立てることを要請された。そこで、AはP社を代表してAのQ銀行に対する債務を保証する契約をQ銀行と締結することにした。その際、AはB・Cが会社の経営にほとんど興味を示さない名前だけの取締役であったことから、B・CにはAの借入金債務について保証契約を締結することを知らせたのみで、何らの会議を開催することはなかった。

他方、Q銀行は、保証契約の締結についてP社内で決議があったと信頼し、決議があったかどうかを確認することなく、また何らの書類の提出を求めることなく、Aとのローン契約およびP社との保証契約を締結した。

その後、AはQ銀行に対する借入金の返済が困難になったことから、Q銀行はP社に対して1000万円の支払を求めた。

（１）Q銀行のP社に対する1000万円の支払請求について、P社は支払を拒むためにどのような主張をすることが考えられるか論じなさい。またP社の主張は認められるか論じなさい。(50点)

（２）AはQ銀行のP社に対する保証債務の履行請求に応じることとし、P社はQ銀行に1000万円を支払った。P社設立以来、P社の発行する株式の10%を保有している株主Eは、本件保証債務をP社が履行したことから、保有株式の価値の下落により損害を被

ったと考えて、損害回復のために、代表取締役Aおよび他の取締役B・Cの責任を追及したいと考えている。EのAおよびB・Cに対する責任追及はどのような手段によるべきか、また責任は認められるか論じなさい。なお、損害額については論じなくてよい。

(50点)

余白